

木材サミット 2014 の概要

I. 総論

1. 開催日時・場所

木材サミット 2014 は平成 26 年 7 月 3 日（木）13:00～16:30 に木材会館 7 階ホール（新木場）において開催された。

2. 出席団体・出席者

木材関係の 24 団体（内オブザーバー出席 3 団体）から 46 名の出席者と木材サミット連絡会事務局・世話人 5 名を合わせて合計 51 名が出席した。円卓会議着席者は 44 名であり、その内団体の代表者は 19 団体であった。

3. 開会挨拶

富田世話人より、司会を同世話人が行い、山本世話人と有馬世話人予定者に司会補佐を依頼する旨の発言があり、開会された。

司会者より、平成 24 年 10 月 30 日に木材サミット検討会を開催後、昨年に第 1 回および第 2 回の木材サミット連絡会、本年 4 月に第 3 回同連絡会を開催して準備を行い、木材サミット 2014 の開催に至った経緯が紹介され、木材関係団体が一堂に会する初の会合となったことに対して、参加団体に謝意が表された。さらに、環境と資源面から地球の有限性が問題となっている現在、再生可能な資源とりわけ木材を活用することが不可欠であり、このような目的のため、活動していきたいとの趣旨が述べられた。

4. 出席者紹介

司会者より、参加団体と出席者の紹介が行われた。

5. 木材サミット 2014 の開催趣旨と運営概要について

司会者より、「木材サミット 2014 開催趣意書」について、第 3 回木材サミット連絡会において承認されていることが紹介され、参加団体を代表する出席者全員が署名した。

その後、第 3 回木材サミット連絡会で承認されている「木材サミットの運営概要」について再確認が行われた。また、木材サミット 2014 の内容を概要として取りまとめることが報告され、完成後には各団体のホームページに掲載すること等が依頼された。

II. 主要課題

司会者より、主要課題の設定経緯について説明があった後、それぞれの主要課題について団体からの発言と意見交換が行われた。

1. 木材利用促進の動向に関わる情報交換と情報共有について

最近の木材利用促進に関係する動向、とくに木材利用ポイント制度、HWP（伐採木材製品）、

FIT（電力固定価格買取制度）によるバイオマス発電、公共建築物等における木材利用状況、オリンピック・パラリンピック開催に関係した木材分野の動き等について、情報交換と意見交換を行った。各団体より、関心が高い制度とその動向、内容、要点、対応等についての情報が紹介されると同時に、それぞれの制度等による木材利用促進のために必要な行動や留意点、要望等が提案された。さらに、木材の供給体制の安定化、木材価格の安定化、最近の建築基準法の改正、木材利用促進に関する動向の評価等について意見交換が行われた。

主な内容を取りまとめて箇条書きにすると以下の通りであった。

- (1) 木材利用促進の動向に関する全般的な概要について
- (2) 木材利用促進についての今後の要点について
- (3) 木材利用ポイント制度について
 - (ア) 経過と現状報告
 - (イ) 現状の成果、課題の報告と申請の簡素化、制度の変更・継続等の要望
 - (ウ) 木材利用ポイントの重要性についての普及の必要性
- (4) HWP(伐採木材製品) と FIT(電力固定価格買取制度) について
 - (ア) HWP 全般的評価と問題、制度の明確化
 - (イ) FIT について、原料木材の既存用途に及ぼす影響と未利用材の有効活用
 - (ウ) FIT に伴う国産チップの供給拡大の必要性と原材料の確保体制
 - (エ) 国産材のマテリアル利用とエネルギー利用のバランスの適正化
- (5) 公共建築物、オリンピック・パラリンピック施設への木材利用について
 - (ア) オリンピック施設に関係した木材関係団体の対応、公共建築物等への木材利用、住宅の木造化、CLT による中高層建築物等の動向
 - (イ) オリンピック関連施設への木材利用に向けた木質材料分野のタスクチームの結成
 - (ウ) 三会堂ビルの改築と木材利用のキャッチフレーズ
- (6) 国産材合板の需要拡大、木材の安定供給体制、木材価格の安定化等について
 - (ア) 木材の自給率向上への国産材合板の生産拡大と持続的な国産原木の供給体制の必要性
 - (イ) 家具分野における木材の供給体制の問題
 - (ウ) 木材価格の乱高下と為替変動の木材利用促進への影響
- (7) 最近の建築基準法の改正について
- (8) 木材利用促進に関する動向の評価について

2. 木材利用に関する情報発信と啓蒙活動について

各団体で行われている情報発信や啓蒙活動の実例とその基盤としている方法と内容、さらに実績や改善すべき点等が報告された。また、木材分野全般における社会への情報発信と啓蒙活動の必要性および問題点とあり方等について意見交換が行われた。方法については、将来に向けた多くの具体的な提案があり、内容については、情報発信と啓蒙活動の根幹となる諸要件、留意点について多くの団体から意見が出された。また、今後木材サミットとして参加団体がまとまって活動する際の基本的な要件についても提案が行われた。

主な内容を取りまとめて箇条書きにすると以下の通りであった。

- (1) 情報発信と啓蒙活動の方法について
 - (ア) 女性タレントやマスメディアにおけるオピニオンリーダー等の育成の提案

- (イ) 団体を横断する支援チームの結成についての提案
 - (ウ) 木材利用拡大のためのスローガンの作成についての要望
 - (エ) 小学生向けの出前講義についての報告
 - (オ) 木材利用全般を俯瞰したホームページを木材サミットに開設する提案
- (2) 情報発信と啓蒙活動の内容について
- (ア) 森林伐採の正当性等を基盤とした木材の正しい知識の普及
 - (イ) 社会に対して科学的根拠に基づく正しい情報の発信
 - (ウ) 木材・環境教育において基盤とて重視すべき点
 - (エ) 木材の長期使用の重要性に関する情報発信
 - (オ) 国産材と外材を同次元に扱った情報発信
 - (カ) 消費者目線での木材の環境面等における社会貢献の情報発信の提案
 - (キ) オリンピック・パラリンピック関連施設への具体的な木材利用事例集作成の提案
 - (ク) 合法木材制度や JAPIC の国産材マークの普及
 - (ケ) 情報発信と啓蒙活動に関する総合的視点からの考察

3. 木材利用に関する人材育成について

各団体より、それぞれの分野の事情で深刻な人材不足が生じており、人材育成が必要であることが報告され、人材育成に繋がると思われる活動とその実績等の紹介があり、木材分野全般における現状の問題点や対策等について指摘と提案があった。とくに、木材利用を推進するために望まれる人材の確保と育成、生徒への木材教育、大学の木材利用分野における学生と教員の確保、研究機関等の人材確保、業界における人材の確保と育成等について、木材利用が地球環境に貢献することに繋がるとの概念を普及させることを基盤として対応するなど、内容と方法を明確にして実施する必要があることが指摘された。

主な内容を取りまとめて箇条書きにすると以下の通りであった。

- (1) 人材育成の方法と内容について
- (ア) リーダーの養成と業界・市民が一体となった人材養成
 - (イ) タスクフォースチームの結成とコーディネーターの育成の提案
 - (ウ) 川上と川下を結ぶコーディネーターの育成
 - (エ) 子供時代の教育と環境産業としての貢献度
 - (オ) 大学教育へ出前講義の提案とリクルート共同研究等
 - (カ) 大学の現状、木材教育のコンテンツ作成
 - (キ) 行政面等の研究体制や技術開発目標等によるネットワーク構築
 - (ク) 経営者が講師となる勉強会の開催
 - (ケ) 就労希望者向けセミナー等の開催と経営者の前線における活躍
 - (コ) 展示会等の活用や産業を PR するビデオの作成の提案
 - (サ) 奨学金、海外渡航制度、顕彰制度等のための基金設立の提案
- (2) 討論の取りまとめについて

4. 参加団体の規模（従業員数等）について

司会者より、木材関係の事業所数と従業者数について総務省の平成 21 年度実績に関する

資料が説明され、懸案となっているサミット参加団体の調査を実施する提案があり、了承された。

5. 木材サミット 2014 後の運営体制について

山本司会補佐より、木材サミット 2014 後の木材サミット連絡会事務局と世話人体制が資料に基づいて説明され、了承された。

6. その他

司会者より以下のことが説明された。

- ・ 討論の内容や提案には、各団体独自で実践できることもあるので、他団体の実例などを手本として実行することが望まれること。
- ・ 木材サミット全体で協力して行動すべきものとして提案された事項については、今後事務局と世話人で対応を検討する予定であること。
- ・ 次回の木材サミットの開催については、木材サミット連絡会で検討したいが、開催する場合は、今回と同時期が良いと思われること。

以上

○添付資料：木材サミット 2014 の配布資料集

当日配布された資料は以下の通りです。

なお、資料 3、4、5、6、7 は内部資料として作成された非開示の資料である。

- 資料 A 木材サミット 2014 出席者席次表
- 資料 B 木材サミット 2014 参加団体および出席予定者一覧
- 資料 1 木材サミット 2014 開催趣意書
- 資料 2 木材サミットの運営概要
- 資料 3 木材サミット 2014 における主要課題の討論の進行について（メモ）
- 資料 4 木材利用促進の動向に関わる情報交換と情報共有に関する討論資料
- 資料 5 木材利用ポイント・HWP・FIT に関する参考資料
- 資料 6 情報発信と啓蒙活動に関する討論資料
- 資料 7 人材育成に関する討論資料
- 資料 8 木材関係の事業所数と従業者数（総務省統計平成 21 年度実績より抜粋）
- 資料 9 木材サミット 2014 後の運営体制